



性能も デザインです。

窓をひとつ決めること、天井の高さを決めること、建物の位置を決めることだって。
それらはすべて、日射や部屋の空気量と流れをデザインし
その住宅の温熱環境をつくる「性能」を決めることにつながっています。
切り離せない「性能」と「デザイン」、そしてそれを実現する「技術」も
わたしたちは、そのどこからでもしっかりアプローチできる家づくりを提案しています。

フォレストの性能をつくる
最もたいせつな4つ

→ P152

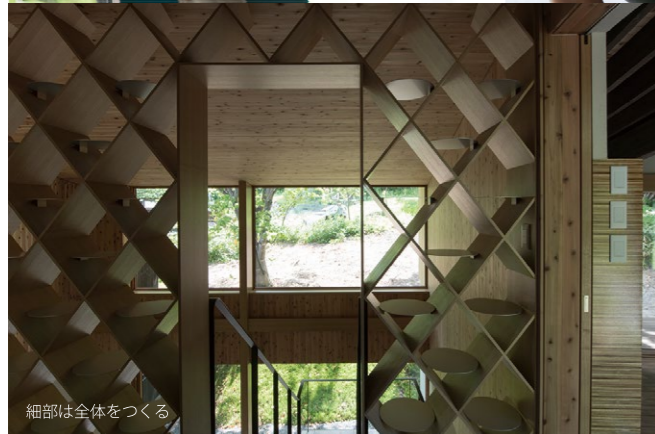




外構工事も家づくりの一部



1mm以下の積み重ねが家を建ち上げる



細部は全体をつくる



石と木と



外部の碎石とやさしく表情を変えるタイル



木目を愉しむ階段



やさしい光を取り込む北庭



マンション密集地の光庭



室内、テラス、森につながる



森とくらす



外部からくらしを守り、自然の気配を届ける



熱以外のすべてを開放する

好きこそものの
上手なれ。

家の性能を上げるもの、それはつくり手自身でもあります。高機能な素材や設備を採用しても、職人の知識や正確さの欠如やちょっとした妥協で、発揮される性能は無意味なものに変わってしまいます。高価なものでもつくり手の丁寧な処理や気配り、純粋に「家づくりが好き」という姿勢は、職人同士の士気を高め、良いアイデアを生み、想像以上の結果をもたらします。「好き」はわたしたちの原動力です。

つくる人も、使う人も、
ものを大切にすること。

本物の素材に囲まれてくらすことがめずらしくなりました。素材の特性を活かして使用し、劣化ではなく年季とともに長く使い込んでいく豊かさ。そこで育つ子どもたちには、匂いや感触も含めてものの大切さと手入れすることの意味を知って欲しい。同じ築年数でもしっかり手入れされた家は美しく、本物の素材が多いほど、家は住み手のくらしに馴染んでいきます。

日本人が生みだした庭、
家には庭が必要です。

庭は、緑を愉しむほかにも役割があります。住宅密集地や高層建築物が隣接する都心部においては、陽の光を得るための救世主でもあります。建物だけでは解決できない日射などへの大きな課題には、敷地すべてを使い切って家を豊かな箱に変えるアイデアが必要です。外部を愉しむための庭から、内部を快適な空間に変えるための庭へ。現代において庭は、嗜好品ではなく必需品となりました。

陽と風と熱と、
家は外と生きています。

窓をひとつ決めるためにも、断熱や換気計画、視線の配慮や意匠に至るまでさまざまな角度から検討していきます。また、窓は光や風、熱の入口であると同時に景色を切り取る額縁でもあります。機能や性能だけにとらわれることなく、ときに住み手が「ほっと」外部にふれる瞬間を想像しながら窓を考えていきます。